

2025 年度一般選抜（コア試験・プラス試験）

出題ポイント

国語

出題の意図

【現代文】

一 常用漢字の範囲内で出題された漢字の書き取りと読みの問題である。標準レベルの漢字に関する能力があれば、解答可能なレベルの設問であるが、一定の語彙力も試されるものになっている。漢字の書き取りについては、旧字・異体字・俗字なども正解の許容範囲とした。

二 政治的な自由とは何かを、社会保障や平等に関する諸課題と関連させて考察した論説文からの出題である。自由についての既存の見解に再考を促す内容が含まれているため、紋切り型の常識に囚われない柔軟な思考力が求められる設問もあるが、現代文に関する標準的な語彙力と読解力があれば、十分に対応できるものになっている。

(一)と(二)は慣用的な表現と四字熟語に関する基礎的な知識を問う設問、(三)と(四)は、空欄の前後の文脈を理解できているかどうかを問う空欄補充問題である。また(五)で問題文の前半と中盤の論旨の関係を把握できているか否かを問う一方で、(六)は問題文前半の内容の理解度を試す設問になっている。こうした(五)と(六)を導きの糸として問題文前半と中盤の関係を把握し、中盤の具体例をヒントにすれば、(七)の正解を引き出すことは比較的容易であろう。最後の(八)はやや抽象的な内容に対する読解力が求められる問題だが、最後の三段落を理解しうる標準的な読解力があれば、十分に対処可能なものになっている。

【古文】

出題した文章は、『紫式部日記』の一場面である。他者の目を気にし、仮面をかぶりながら鬱屈した日々を送る作者の内面を、注なども参考にしながら丁寧に読み解く必要がある。(一)は漢字の読みを問うもの。設問文の但し書きを見落とさないようにしたい。(二)は古文に頻出の古語と文法的知識を、本文に即して理解できているかを問うもの、(三)は古典文法に関する知識を問うものであり、いずれも日頃から文法と単語の学習を継続していれば、さほど難しくない基本的なレベルの問題である。(四)は同音の名詞の区別を問うもので、これも設問の条件をふまえて解くことが肝要である。(五)は空欄補充問題、副助詞及び二種類の「たまふ」に関する活用の知識があれば解答できる。(六)は問題文全体に対する理解を確認する問題である。個々の場面だけでなく全体の流れを正しく把握する必要がある。(七)は文学史の知識を問うものである。例えば歴史物語などでは、作品の成立時期と、その作品に記された対象となる時代とは、基本的にずれている(前者は後者より時代が下る)ことに注意したい。

出題の意図

【現代文】

一 常用漢字の範囲から出題された漢字の書き取りと読みの問題で、基礎的な学力や語彙力を確認するものである。旧字なども正解の許容範囲内としている。

二 出題された文章は、発表時点での日本経済の好調さの要因を明らかにしながら、同時に構造的な問題点を指摘し、その問題点を解消するための方策を提案している。(一)は常用漢字の範囲から出題された漢字の書き取りと読みの問題で、基礎的な学力を確認するものである。

(三)の空欄補充も同様な趣旨である。ともに語彙力も確認しており、旧字なども正解の許容範囲内としている。(二)の空欄補充は選択肢の中からもっとも適切なものを選択する形式で、空欄前後の本文の文脈を正確に把握できるかが問われている。(四)の空欄補充は本文の文脈に対応した慣用的な表現を選択肢の中から選ぶもので、語彙力を確認するものである。(五)(六)は傍線で指定された文についての理解を問う設問で、傍線部以降の本文の内容を文脈にそって正確に把握できれば、選択肢の中から正答を選ぶことができる。(七)は本文からの抜き出しによって、傍線で指定された箇所の内容を理解できているのかを問う問題である。指定された字数をヒントにして、傍線部以降の本文を読み直して文脈を把握すれば、設問の文章の空欄に対応している箇所を発見できる。(八)は本文の内容を理解できているのかを問う問題で、選択肢と本文の対応箇所を丁寧に比較することが正解を選択するためのポイントになる。

【古文】

出題した文章は、『無名草子』の一場面である。リード文や注も参照しながら、文章を丁寧に読む力を問っている。(一)は基礎的な古語と文法的知識を本文に即して理解できているかを問うものである。(二)は重要古語「いみじ」の文脈に即した意味を問う。ここまでの文脈を理解し、傍線直前の条件法を踏まえると解答できる。(三)は「に」の識別を問う。普段から文法的知識を活用しながら学習していると容易に解答できる。(四)は助動詞「まじ」を文脈に即して判断できるかを問うものである。(五)は記述で人物の氏を問う。極めて基礎的な文学史の知識である。(六)は掛詞の理解を問う。基礎的な知識である。(七)は「なむ」の文法的説明を問う。(三)と同様にオーソドックスな学習をしていれば容易に解答できる。(八)は漢字の読みを問う設問だが、下二段活用動詞の活用が理解できていれば論理的に正答を導ける。(九)は内容合致を問うもの。文脈を追えば難しくない。(十)は文学史の理解を問う。作品の成立時期を把握するという基本的な学習を普段から行っていれば容易に解答できる。

出題の意図

【現代文】

一 現代社会で高まっている誇示の欲求と、それに対する他人の承認の関係を、19世紀以来の歴史的経緯と関わせて論じた論説文からの出題である。論点の変化が多く見られる内容ではあるが、現代文に関する標準的な語彙力・読解力・思考力があれば、十分に対処可能な設問になっている。

このうち(一)は常用漢字の範囲内で出題された漢字の書き取り問題、

(二)は慣用的な表現と漢字の能力を試す設問である。いずれの設問でも、旧字・異体字・俗字なども正解の許容範囲としたが、標準的な語彙力を試す出題にもなっている。

また(三)は前後の文脈を把握した上で適切な語句を選ぶ空欄補充問題であり、(五)は問題文の前半の把握度を試す設問といえる。(四)と(六)で問われているのが、問題文前半と後半の論旨の関係であるが、(四)で問われている内容が的確に理解できていれば、(六)の記述式の問題にも十分に対応が可能であろう。なお、(六)については部分点を与えたものがある。

二 出題された文章は、生成AIについての議論を、自律性と意味という二つの論点から原理に立ち返って整理して、生成AIの本質について考察したものである。(一)は常用漢字の範囲から出題された漢字の書き取りの問題で、基礎的な学力と語彙力を確認するものである。旧字なども正解の許容範囲内としている。(二)は空欄補充の問題で、選択肢の中からもっとも適切な語句を選択する形式である。空欄前後の本文の文脈を正確に把握できるかが問われている。(三)(四)は傍線で指定された文についての理解を問う設問で、傍線部以降の本文の内容を文脈にそって正確に把握できれば、選択肢の中から正答を選ぶことができる。(五)はよく使われる用語を具体的に理解できているのかを問うている。(六)は本文からの抜き出しによって、傍線で指定された文が提起した問題を理解できているのかを問う問題である。指定された字数をヒントにして、本文全体を読み直せば、設問の文章の空欄に対応している箇所を発見できる。(七)本文の内容を理解できているのかを問う問題で、選択肢と本文の対応箇所を丁寧に比較することがもっとも適切な解答を選択するためのポイントになる。

【古文】

出題した文章は、御伽草子の『ふくろふ』の一場面である。リード文や注も参照しながら、文章を場面に即して丁寧に読む力を問うている。リード文から物語の展開を予測し、注から読解に必要な情報を読み取る力は読解力の重要な要素である。

(一)は基礎的かつ古文に頻出の古語と文法的知識を、本文に即して理解できているかを問うものである。語彙力と読解力の双方が必要である。(二)は格助詞「の」の用法の識別、(三)は「に」の識別問題で、いずれも基礎的な文法的知識を問うものであるが、(二)は本文の正確な読解とも関わる。(四)は手紙(御返事)の始まりの箇所を問う内容把握問題。丁寧に読み解けば十分に解答できる問題だが、文末の「候ふ」も手がかりとなる。(五)の空所補充も内容を正確に把握できているかを問う問題である。梟の「まどろむ姿」に鶯姫が腹を立てていることを読み取った上で、「思はねばこそ(思っていないからこそ)」と「夢にや見んと(夢で会えるだろうか)」の対比を踏まえれば正答にたどり着ける。なお、解答には動詞の活用の知識も必要である。(六)は文章に即して内容が把握できているかを問うもの。登場人物それぞれの行動や発言の内容を、順を追って丁寧に読み解くことが大切である。(七)は文学史の基礎的な知識を問うものである。

【漢文】

(一)訓みを問う。重要な漢語については日頃から意識して覚えておくのと良い。また、基本的な文法の知識もきちんと固めておいてほしい。

(二)脚韻を問う。これについても、基本的なことは押さえておいてほしい。(三)(四)文脈を読み取る能力を問う。全体の文章をきちんと把握できれば難しくない。日頃から、問題集を解くなどして、多種多様な漢文に慣れ親しんでおくのが良い。(五)基本的な文学史を問う。授業で学ぶ範囲である。以上の他に、最も重要なのは日々の授業をおろそかにしないことである。その日にやる範囲の漢文は前もってノートに書き出し、現代語訳を作成し、重要な単語や句法などについては注記しておいた上で授業に臨めば、理解が深まるはずである。また定期試験や模擬試験などで間違えた箇所だけ抜き書きしたノートを作り、試験前に見直すと良い。

出題の意図

【現代文】

出題された文章は、理系研究者の手によるもので、文学の話から始まり、生物学・植物学、そして現代社会・政治学に話題が及ぶ、まさに文理融合・分野横断的な幅広いトピックが関連しつつ連続していくところに特徴がある。(一)は常用漢字の範囲から出題された漢字の読み書きの問題、また(五)は慣用的な定型表現の空所(漢字一字)を補充する漢字書き取りの問題である。どちらも基礎的な漢字力・語彙力を確認する記述問題で、書き取りにおいては旧字・異体字・俗字も正解の許容範囲としている。判読不能のため正誤判断ができないといったことが起こらないよう、楷書でわかりやすく書くことが期待される。(二)(三)は、文学史というより現代日本社会・日本文化についての基礎的知識を問う問題である。(四)の空欄補充は、選択肢の中からもっとも適切なものを選択する形式で、空欄前後の本文の文脈を正確に把握できているかが問われている。(六)は、文章冒頭に提出された問いに対する筆者の答えを、指定された字数をヒントにして読み解く記述問題である。本文章の重要な主張が理解できているかを問う問題であるが、傍線部以降を読み、その趣旨を把握すれば、対応している箇所を発見できる。抜き出すにあたっては誤字脱字等のないよう、落ち着いて正確に書き写すことも求められる。(七)(八)は、傍線で指定された部分についての正確な理解を問う設問で、傍線部前後の内容を文脈にそって正確に把握できれば、選択肢の中から正答を選ぶことができる。

【古文】

中世王朝物語の『あきぎり』から出題したもので、高校古文の基本的能力を問う問題となっている。(一)～(四)(七)は、それぞれ出題形式は異なるが、古文の基礎的な単語や文法事項を知っていれば容易に解ける問題である。(五)(六)は本文の解釈に関する問題であるが、登場人物の状況や出来事の流れなどが問題文全体から読み取れていれば難しくない。(八)は問題文全体を正確に理解できているかを問うているが、紛らわしい選択肢はなく、問題文を丁寧に読んでいけば答えられる。

なお、(四)の①に関して、「うとまれ給はんずらん」の「れ」が受身か自発か確定することはできず、それにより「給は」の敬意の対象は「姫君」「大殿(大臣)」のいずれの可能性もあることが出題後に明らかとなった。そのため、この問題は解答の有無にかかわらず受験者全員を正解とする措置を取った。

問題の特徴

これまでと同様に、現代文・古文・漢文を通じて奇問や極端な難問はなく、多くは基礎的な知識や理解力を問うものとなっている。漢字の読み書きが常用漢字の範囲内で毎年必ず出題され、熟語や慣用的な表現を完成させる問題、それらの意味を問う問題なども頻繁に出題される。現代文は、文学的・哲学的な内容のものから現代社会の動向や時事的な出来事を扱ったものまで、幅広いテーマの論説文を中心に出版されている。古文の問題は、学部を問わず読みやすい文章を選び、古典の表現・語法に関する基礎的知識や文脈を正確に追える読解力を問うものを中心になっている。漢文は文学部においてのみ一題出題される。全体的な内容理解とともに、基礎的な句法の訓読の仕方、基本語彙の読み方・意味などが出題されている。

学習へのアドバイス

現代文については、日常生活で日本語の文章に接する機会を多くもつことが大切である。それが日本語の基礎力を向上させ、受験勉強のみならず大学入学後にも役立つ真の学力を養うことにつながる。読書に際しては全体の趣旨と論理の流れを把握し、なじみのない言葉は辞書をひいて意味を確認するように心がけてほしい。古文・漢文については、日々の授業をおろそかにせず、教科書をきちんと理解しておくことがもっとも大切である。より具体的にアドバイスをするなら、その日に予定されている範囲の古文は前もってノートに書き出し、現代語訳を作成し、重要な単語や文法事項については注記しておいた上で授業に臨めば、理解が深まるはずである。また定期試験や模擬試験などで間違えた箇所だけ抜き書きしたノートを作り、試験前には見直しておくとうい。